KEIWA COLLEGE REPORT

敬和学園大学と地域社会をつなぐコミュニケーション誌
敬和カレッジレポート
第92号 December 2018
発行／敬和学園大学後援会　敬和学園大学

Close up

「相対化して考える多文化主義とカナダ」
英語文化コミュニケーション学科　荒木陽子

新しいコースが誕生します（情報メディア、ソーシャルビジネス）
敬和祭／ふれあいバラエティ

アジア・ユース・フォーラム／中国陝西省での現地調査
小和田恆先生をお迎えして
授業紹介⑭「環境経済学」房文慧

敬和祭でのアジア料理屋台

2019年度

敬和学園大学に新しいコースが誕生します。

国際文化学科 情報メディア・コース

〈学び〉 情報メディア・コースでは、情報発信を中心に「メディア」に関する実践力を身につけます。情報メディア、デジタルジャーナリズム、デジタルコンテンツ、情報セキュリティなどの講義科目だけでなく、映像制作などのデジタルコンテンツの制作、アプリ制作、コンテンツ制作マネジメント、時事問題研究、アナウンスやコピーライティングなどの実践的な科目を幅広く開講します。また、「ITパスポート」などの資格対応の科目を用意し、IT関連の資格取得をサポートします。

〈実践〉 プレゼンテーション、紙媒体、映像などのデジタルコンテンツ制作のスキルを地域社会で実践します。これまでも、新潟県事業「新潟県の名水」など外部団体と連携した映像制作、地域を題材にした映像制作と上映、写真の町シバタと連携した地域の写真撮影会（フォト・ウォーク）などを実施してきました。情報リテラシーに関する高校生向けワークショップも開催しています。こうした活動に加えて、今後は、ガタケットなどのコンテンツ制作参加なども計画しています。

〈就職〉 リベラルアーツ教育に、専門的な情報メディア教育が加わることにより、メディアでの就職を目指す学生に対するサポートが強化されます。すでに卒業生は、新聞、テレビ、ラジオ、出版等の地域メディアで活躍しています。また、本学の情報メディア教育は、発信力に加え、技術の変化にも適応できる内容となっており、官公庁や民間企業などでも幅広く活躍できます。

「ソーシャルメディア」「アニメ産業」について学ぶ

教員紹介 一戸 信哉 教授

情報メディア環境の急速な変化を理解し、社会変化の波に柔軟に対処できる学びをすすめています。情報メディア・コースでは、ソーシャルメディア社会の未来を、発信しながら考えていきます。

共生社会学科　ソーシャルビジネス・コース

〈学び〉　ソーシャルビジネスとは、地域のさまざまな課題をビジネスの手法でその解決策を図る持続可能な循環型経営の仕組みのことを言います。言い換えれば、営利のみを目的としないビジネスのことを指しています。活動を通して得られた利益は地域課題解決事業に再投資されます。

　少子高齢化社会における、過疎・離島、災害、人口減、生活困窮、商店街活性化、地域活性化、農業、買い物難民、移送、景観、歴史、文化などに関わる新しい人材育成を目指します。

〈実践〉　教室での学びだけではなく、地域との関わりを通して実践力を培っています。例えば、粟島浦村と連携し、粟島の地域課題を直に体験しながら、その課題解決に必要な知識とスキルを学びます。一例としては、粟島浦村特産物開発を通した地域活性化策としてアマドコロのアイスクリームを開発し、すでに商品化が決まっています。また新発田市内で毎月開催している「認知症カフェしゃんしゃん」の取り組みでは、学生たちが地域住民と共に地域課題の解決策を模索しています。

「まちづくり」「社会起業」「NPO」について学ぶ

〈就職〉　福祉団体や機関、協同組合やNPO、まちづくり分野、公務員など、就職先もさまざまです。また、企業活動において地域との信頼関係なしにビジネスが成り立つことはもはや不可能に近く、多くの企業は地域貢献を基盤とした社会活動に力を入れてきています。企業と地域をつなぐことのできる人材として、一般企業での活躍も期待されます。

2019年4月着任予定　堀野 亘求 准教授

まちは人の営みと共に絶えず変化します。その変化を柔軟にとらえ、人々を笑顔に変える人材が今必要です。「まちづくり論」では、まちと自分が共に成長する過程を通じて学びを深めます。

2019年4月着任予定　石坂 誠 准教授

ソーシャルワーカーとして働く中、地域課題解決のための社会資源の開発や地域づくりにおける、NPOや協同組合の無限の可能性を感じてきました。一緒にその可能性を追求しましょう！

教員紹介　趙 晤衍 教授

多様な生き方と多様な働き方が求められる現代社会に必要な真の豊かさとは何か。これらの問いかけに対し、「ソーシャルビジネス」の学びを通じて、地域づくりのあるべき姿について考えます。

2019年4月着任予定　松本 淳 准教授

ＩＴやアニメなどのコンテンツの制作・開発手法の変化、ビジネスのトレンドや社会への影響について研究しています。「アニメ産業論」では、アニメ・ゲームなどと地域・経済の関わりを学びます。

地元の方から
粟島料理を学ぶ

粟島で自生する
アマドコロ

完成したアマドコロアイス

アクティブラーニング紹介⑭
粟島プロジェクト

共生社会学科の趙ゼミでは、ソーシャルビジネスの学びの実践として「粟島プロジェクト」に取り組んでいます。ソーシャルビジネスとは、地域社会のさまざまな課題をビジネスの手法で解決を目指す、新しい地域おこしの取り組みです。

粟島フェアでは、地元主婦から直伝の粟島料理を新発田駅前のまちカフェ・りんくで振る舞いました。また、これまで島の中では注目されていなかったアマドコロの美容成分に注目し、お茶やアイスクリームといった商品の開発を行っています。

学生たちの学びが、粟島の新たな特産品や財源、雇用を生み出そうとしています。

誌面案内 Magazine Guide

敬和学園大学に新しいコースが誕生します…… 1

Close up …… 3
「相対化して考える多文化主義とカナダ」
英語文化コミュニケーション学科　荒木陽子

第28回敬和祭のご報告 …… 6

学生による夏休みの復興支援活動 …… 6

ふれあいバラエティのご報告 …… 7

アジア・ユース・フォーラムのご報告 …… 8

新発田まつり 学生によるラジオ生中継の実施 …… 8

朱鷺を巡る中国陝西省での現地調査のご報告 … 9

企業の皆さまとの懇談会を開催 …… 9

小和田恆先生をお迎えして …… 10

Jazz Questが水上ステージで演奏 …… 10

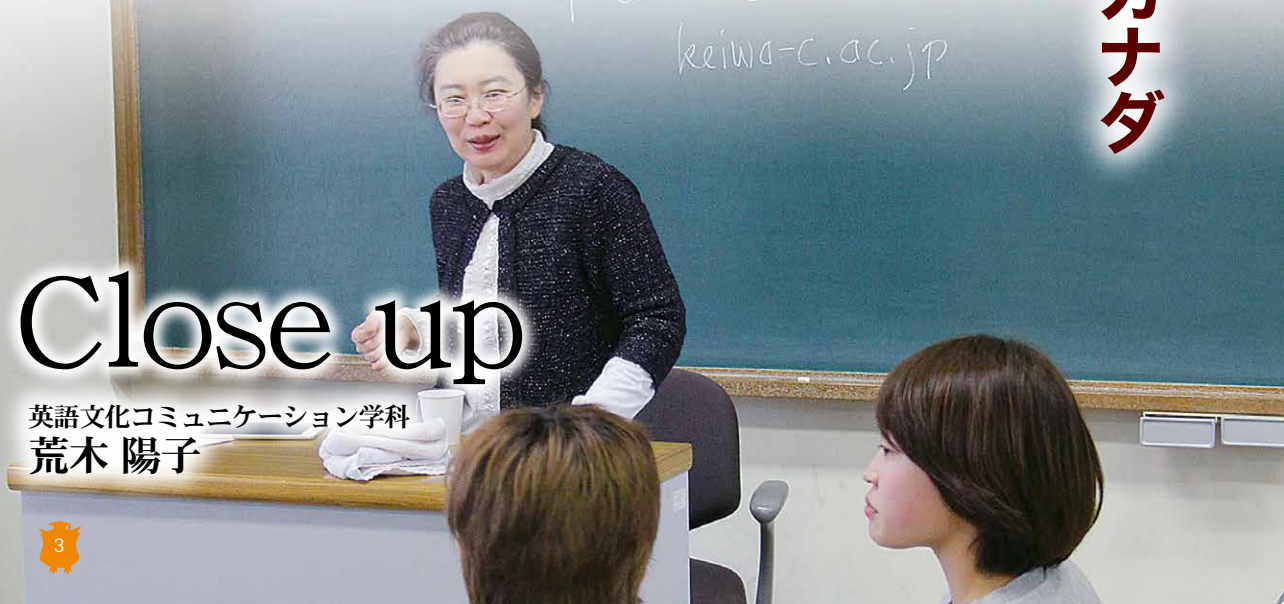
授業紹介⑭「環境経済学」房文慧 …… 11

同窓会リレー・エッセイ㊹…… 12
「相手に伝えることの面白さ」　若山真生（24期生）

〈表紙写真〉
敬和祭で一番人気だった、
留学生たちによるアジア各国料理の屋台

KEIWA COLLEGE

相対化して考える多文化主義とカナダ



Close up

英語文化コミュニケーション学科
荒木 陽子

●ニルスとカナダの風景

先日、同僚の金山愛子先生の研究室にお邪魔すると、机の上にセルマ・ラーゲルレーヴの『ニルスの不思議な旅』が置いてありました。いわゆる「アニフォー」の読者の皆さまは、NHKテレビのアニメーションでちらっと見たことがある方も多いのではないかと思います。研究室のテーブルの上に載っていたものは立派な装丁の本でしたが、私の頭の中に湧き上がってきたイメージは、大きな白いガチョウ（当時の私はアヒルだと思っていましたが…）にまたがって、朝日に照らされた畑と湖の上空を飛ぶ金髪の白人少年ニルスと、それを追うように木に囲まれた水辺から一群の雁が飛び立つ、アニメのテーマソングのイメージでした。

私は実はこの空飛ぶガチョウのイメージにたびたび再会しています。はじめはかなり前、まだ子どもが生まれる前に、プリンス・エドワード島出身の夫に、私の好きなアニメとしてニルスのビデオを見せた時のことです。私としては自分が子どものころ大好きだったアニメですから、「ちょっとこの素敵な風景見てよ！」という感じで、ビデオを再生したのですが、夫の反応は素気ないものでした。

「カーテン開けてみれば。その映像、この辺とほぼ一緒だよ。」つまり、つまらないということなのでしょう。確かに以前住んでいたキャベンディッシュの家の玄関を一歩踏み出せば、もみの木か赤松の林か、そうでなければジャガイモか麦か豆の畑。近所のちょっと大きな家の庭の池や、阿賀野川と比較すれば貧弱な小川の近くの草地では、大きなカナダ雁の群れが餌を食べていました。"As the twig is bent…"（三つ子の魂百までだなあ）と言い放ち、夫はどこかに行ってしまいました。その後、私たちはオンタリオ州南西部の田舎町に引っ越すのですが、この風景は相変わらず私たちと共にあります。

ご存知のとおり『ニルス』の設定はスウェーデンです。アニメは一九八〇年学研の制作で、おそらく当時の日本人アニメーターの頭の中にあるスウェーデンは、カナダの東海岸とあまり変わらなかったのかもしれません。その前年に放映され、大人気を博した名作劇場のアニメ『赤毛のアン』の設定が、キャベンディッシュであったので、『ニルス』の風景もその影響を受けているのかも知れません。残念ながら私は一九七七年生まれで『赤毛のアン』のアニメは子ども時代に見ていませんでした。ですから、私のカナダ的なイメージとの出会いは、実は「スウェーデンを設定とした日本のアニメ」となります。面白いものですね。

●留学生が見るカナダ

私が実際にカナダに行ったのはずっと先、二〇〇〇年（二三歳）です。この時は調査で、ヴァンクーヴァーとオタワに行くのですが、冬だったので首都オタワ周辺の田園風景は雪の下。雁の群れはとっくにアメリカ合衆国へ行ってしまった後でした。また、雪のないダウンタウン・ヴァンクーヴァーには畑はありませんでしたし、香港返還から日も浅かったからでしょうか、アジア系が圧倒的に多く、ニルスのような見かけの白人少年にもあまり会いませんでした。

ところで私は、敬和学園大学にやってきてからずっと国際交流委員を務めさせていただいています。本学では毎年数名の学生をカナダへ短期留学に送り出していますが、そのほとんどの学生が留学先としてトロントないしはヴァンクーヴァーを選びます。私の中のカナダの原風景は、これまでお話ししたとおりの田園調であったり森林であったりして、その人口の八割以上がいわゆる白人という地域です。一方、本学の学生の大半がカナダで経験するのは、世界二位を誇る広大な国土（水面積を含むと一千万平方キロメートル近い）のごく一部に過ぎない新移民の闊歩する大都市なのです。桁を間違わずに見てほしいのですが、そのうちトロント市は約六三〇平方キロメートル、ヴァンクーヴァー市は一一五平方キロメートル弱にすぎません。それに、いわゆる大都市の語学学校に通うことの多い学生の経験するカナダは、多くの場合「世界各国の英語を勉強したい人たち」が集まる、カナダの中でも特殊な環境であることも忘れてはいけません。

カナダ郊外の湖とカナダ雁の群れ

たくさんの学生が留学の後、スピーチ等で国際交流活動に協力してくれます。そして、彼らのほとんどは、写真を交えながら、彼らの経験したカナダが多文化主義的な国で、彼らが民族的に多様性に乏しいと考えている日本とは異なり、いかに多様性を受け入れる「自由な国」なのかを語ってくれます。そんな好意的な口コミのせいでしょうか。毎年のように卒業後にワーキングホリデー制度を利用してカナダに長期滞在したいという学生の声を聞きます。

●多様性を受け入れる自由な国？

ただ、注意してもらいたいのですが、「アジア系留学生」や「ワーキングホリデーメイカー」として滞在するのと、「アジア系定住労働者」として滞在するのとでは、経験が大きく異なるものになるであろうということです。留学生はカナダにお金を落としすぐに帰国する、つまり、カナダという国家に面倒をかけることのない「お客さま」です。当然、好意的に扱われます。一転、定住する労働者、つまり移民は、カナダが世界に誇る、国民皆保険制度や年金制度、さらには失業保険を含む充実した社会保障費を払わねばなりません。そして、移民が納税する額より、彼らのために国が支払う社会保障費が上回ってしまう場合、カナダの累進課税制度上で税金をたくさん払っている人たち（その多くは何世代もカナダに住んでいて、安定した職業についている白人たち）の不満が噴出します。

学生に人気の大都市トロント

本当にカナダは「多様性を受け入れる自由な国」なのでしょうか。確かにカナダは移民を毎年大量に受け入れています。二〇一八年には、トニー・トレンブレー先生を本学にお招きし講義を受けましたが、カナダは都市部とそれ以外の地域の地域間格差が著しいことでも知られており、地方は経済が疲弊し労働人口が大都市に流出し、新移民は仕事の多くある都市部に集中する傾向があります。このような大都市では、確かに白人は数の上では少数派でしょう。私たちのような東アジア系の住民も多いですし、頭にターバンを巻いた人たちも、ヒジャブを巻いた人たちも、アフリカ系の人たちも、それにもちろん先住民の人たちも、とにかくさまざまな見かけの人たちが好きな服を着て、楽しく生活しているように見えます。そのような風景を見ると、みんなが黒っぽい髪をしていて、服装は何となく東京の流行一色に染まりがちな、日本の地方都市生まれの私たちは、例えば「なんか新潟よりカナダが自由かも」と、思いがちです。特に、時々テレビに出てくる四〇代半ばの若い首相、ジュスタン・トルドー（日本のメディアは英語風にジャスティンと発音していますが、彼はフランス系です）や、トルドー政権で合法化された娯楽用大麻（日本では当然非合法ですが）のイメージもそれに関連しているのでしょう。

家族との団らん

●多文化主義を相対化する

ただ、単に多様な民族が一つの空間にひしめいているのと、社会が多様性を受け入れて、多様な人々が平等に存在しているのとでは大きな違いがあります。大都市を皆さんと闊歩しているさまざまな民族が、家庭、職場、学校さらには地域でどのような生活を送っているのかを考えてみてほしいのです。昨今、人手不足の日本でも新しい外国人就労許可制度が話題に上ることが多いですが、結局新しい就労許可制度で外国籍の人でも就労が可能になるのは「日本で生まれ育った標準的な日本人が避けたい職業」のような気がしています。同様に、カナダでも多くの新移民、さらにはもっと条件の悪い期間限定で就労を認められる季節労働者が従事しているのは、低賃金・重労働で、カナダで生まれ育った人たちが避けている職業です。このような社会は、本当に自由なのでしょうか。専門的スキルのないワーキングホリデーメイカーの得る仕事は、アジア系新移民と重なるでしょうから、注意深く過ごせば彼らの世界も見えてくるかもしれません。

地域間格差の問題も、外国人労働者の問題もこんな風に考えれば、カナダはひょっとしたら日本の未来を先取りしているともいえるかもしれません。これからカナダの大都市に出かける人は、表面だけではなくしっかりとカナダの現状を眺めて、日本にいる私たちにその情報を伝えてもらいたいです。そして余裕があれば少し足を延ばし、私の知っている、トロントやヴァンクーヴァーとは違うカナダの田舎風景も見て、カナダの多文化主義を相対化してもらうと、より有意義なカナダ体験ができるかと思います。

Profile

荒木陽子 准教授
プロフィール

●最終学歴

新潟大学大学院現代社会文化研究科国際社会形成論専攻博士課程後期 修了（博士（学術））

●研究テーマ

北米英語圏の文学、文化

●こんな授業をしています

社会・文化的なコンテクストを大切にしながら北米英語圏の文学や文化を学んでいます。特に、文学作品を読む際には、難しくてもできるだけ翻訳は使わず、原典で作品を読んでいます。

※荒木先生は敬和学園大学卒業生（5期生）です。

踊り狂った平成最後の敬和祭

第二八回敬和祭のご報告

今年のテーマ「踊り狂え!平成最後の敬和祭」には、「心が踊るだけじゃもの足りない、狂ってしまうくらいワクワクするものにしよう!」というメッセージを込めました。そして、このテーマどおり、ゲストのアイドルや声優の皆さま、熱心なファンの方々、屋台や展示、ステージを盛り上げた学内外の皆さん、そして参加学生が一緒に盛り上がり、一体感を感じるイベントにすることができました。敬和祭の盛り上がりというのは学生だけではなく、参加された皆さまと一緒に創り上げるものであることをあらためて実感しました。この思いと共に、下級生に来年度へのバトンを託したいと思います。(敬和祭実行委員長　金澤優樹)

屋外ステージで皆さんと盛り上がりました

はじめての敬和祭を楽しみました

共生社会学科一年
本田　景子

初めての敬和祭で実行委員会と屋台に参加しました。高校時代は生徒会に所属していて、大学でもやりがいのある活動に参加したかったからです。

実行委員としては、出店者会議や地域の商店街や駅にポスターを貼る仕事、パンフレットの送付や学生の参加を呼び掛ける活動などをしました。地道な活動が好きなので発送作業などで貢献できたと思うのですが、外部へのお願いなどの交渉はまだまだ難しかったです。もっとコミュニケーション能力を磨いて、来年は参加者増に貢献したいです。

屋台では、所属しているランニングサークルで唐揚げを販売しました。私のおすすめはチーズをのせた唐揚げです。呼び込みもうまくいき、昨年以上の売り上げを達成することができました。

両日天気があまりよくなかったのですが、屋台を見て回る人や食事スペースで食べている人、ステージを見にきた方で、会場全体に賑わいがありました。大勢の方が来てくれて、うれしかったですし、私自身もしっかり楽しめました。

被災地の方々に寄り添う活動を

学生による夏休みの復興支援活動

長期休暇を利用し、学生たちは、今年七月に西日本豪雨災害のあった広島での現地ボランティア活動、そして二〇一六年に発生した熊本地震被災地の現地視察と今後の支援ニーズの調査に行ってきました。支援してくださった皆さま、そして現地でサポートしてくださった皆さまのおかげで貴重な経験をさせていただくことができました。本当にありがとうございました。

参加した学生三名からのレポートをお届けします。

英語文化コミュニケーション学科四年
学生ボランティア・コーディネーター
武田　愛実

私たちＫｅｉｗａ ＨＯＰＥは、八月二七日から三〇日に西日本豪雨被害のあった広島県三原市で被災者のご自宅の泥出し作業などを行ってきました。そして、九月八日から一一日に熊本県上益城郡御船町へ行き、熊本地震によって今なお仮設住宅で暮らしている方や御船町の藤木町長、御船町観光協会、熊本ＹＭＣＡさまのご協力を得て、震災当時のお話を伺いました。同時に現地のイベントにて新潟銘菓の手作り笹団子を販売することで、「被災地を忘れない」という私たちの思いを伝えることができました。

二年生たちが中心にがんばりました

ふれあいバラエティのご報告

今年のふれあいバラエティは史上初めて二年生が中心となり、実行委員長、副委員長も務めました。例年どおり五月のメンバー募集からスタートし、夏期休暇中に招待施設に案内、飾り付けの準備という流れを踏襲していたものの、二年生にとっては全体のイメージも明確ではなく、さらに開催が金曜から木曜に変更になるという新しいことづくしのイベントでしたから、当日を迎えるまで不安でいっぱいだったと思います。それでも、敬和祭実行委員やブラスバンド部、上級生のサポート、そして何よりもお客さまの笑顔によって、無事に、そして盛況にイベントを終えることができました。

（ボランティア・コーディネーター　池田）

縁日のブースも好評でした

最高の笑顔をいただけた一日

国際文化学科二年
谷井　洸太

ふれあいバラエティで実行委員長を務めさせていただきました。私は、今までリーダーという立場になったことがなく、うまくできるか不安でした。

イベントの準備がはじまった当初はとても大変でした。参加学生を募ってもなかなか人が集まりませんでした。そして、イベントの内容をどうするべきかも定まらず、話し合いばかりが続きました。会場の装飾などは、夏休みからはじめたのですが、完了したのは当日ぎりぎりでした。もっと工夫すればよかったんじゃないかと思うことばかりでした。

しかし、イベントがはじまると、来場されたお客さまはとても喜び、笑顔でレクリエーションや縁日のブースを楽しんでくださいました。自分のふがいなさを感じていましたが、お客さまが楽しむ姿を見て、心からやってよかったと思えました。

今年のふれあいバラエティは、お客さまに満足していただけたので大成功です。しかし、反省点も多いです。これをバネに、来年はよりよく、もっと楽しんでいただけるイベントにしたいです。

英語文化コミュニケーション学科二年
結城　由羽（ゆう）

私たちが向かったのは、豪雨被害から二か月も経っていない広島の三原でした。こんな高台にまでと思うような所に濁流が流れ、泥が溜まっていました。その重い泥を床下から掻き出し、床や壁の乾いた土をブラシで掃き、黒い汗をかきながら活動を続けました。

大切なことは、自分ができることを考え、行動することです。そしてその思いが誰かの役に立ちます。だからこそ、何かあればすぐに助けにいける人でありたいと思います。

英語文化コミュニケーション学科二年
棚村　恭乃（ゆきの）

熊本県上益城郡御船町を訪問し、熊本地震について調査してきました。現地の方は皆さん明るく、二年前に震災被害にあわれたとは思えませんでした。仮設住宅で生活されている方や御船町の町長、観光協会の方からのお話を伺い、当時の状況とこれからの課題について学ぶことができました。

新潟と熊本は距離がありますが、遠くにいながらも今回のような交流関係を築ける喜びを感じました。

社会の諸問題を議論し、リーダーシップを養成する

アジア・ユース・フォーラム（AYF）のご報告

「青年の力：言語、文化、観光、平和」をテーマに、今年のAYFが一〇月三一日から一一月六日、京都外国語大学を会場に開催されました。敬和学園大学からは、学内選考を経た三名の学生が参加しました。参加する学生には、本学から参加費が支給されます。

久しぶりに日本での開催となったフォーラムには、アジアの多くの国や地域から青年たちが集まり、セミナーやワークショップで共に学んだり、異文化体験や国際交流活動を行いました。参加者たちは、国際理解、国際協力、異文化コミュニケーション、リーダーシップ性を高め合うことができました。

（英語文化コミュニケーション学科　グッドマーカー）

各国・地域の民族衣装で集合

大好きな英語がさらに好きになりました

英語文化コミュニケーション学科二年
小林　明日香

AYFの募集が出てから「参加したい！」と思っていました。他国の学生と英語をコミュニケーションツールにして過ごすこのイベントは、私にとってとても魅力的なものです。グッドマーカー先生から"Welcome to AYF"というメールを受けた時はうれしさでいっぱいでした。

アジア一〇数か国から集まった学生たちは、それぞれの母国や文化をとても誇りに思っていて、みんな意欲的です。そんな仲間と、場面ごとに話し合えたことで視野を広げることができました。

多くの時間を一緒に過ごしたマレーシア人の二人はイスラム教徒、ムスリムでした。一日五回のお祈り、食事の制限など至るところで文化の違いを感じました。同時に、マレー語を教えてくれたり、好きなドラマについて話したり、「友達」として素敵な時間を過ごしました。

文化や宗教といったバックグラウンドが異なる学生同士が理解し合い、共に過ごした一週間が素晴らしいものになったのは、「英語」という第二言語のおかげです。大好きな英語がさらに好きになり、もっと勉強しようと強く思いました。

新発田まつりを学び、伝える

学生によるラジオ生中継の実施

学生七名が参加し、新発田市のコミュニティFM「エフエムしばた」による「新発田まつり」の生中継を八月二七日から二九日の三日間行いました。

学生たちはエフエムしばたの皆さまからの事前研修を受け、祭りについての学びを深めてから、本番の中継に臨みました。最終日の帰り台輪では「あおり」に圧倒されながらも懸命にレポートを行いました。学生のうち、新発田出身者は二名。番組制作を通じて、新発田への理解を深めると共に、「伝える」側の責任を感じる機会となりました。

（国際文化学科　一戸）

国際文化学科一年
有本　らな

ラジオという映像のないメディアで、聞いている方がどのような言葉を聞いたら情景や様子を浮かべやすいのか、迫力が伝わるのかを考えるのがとても大変でした。今回、言葉で伝えることの難しさ、伝わることのうれしさを改めて感じました。また、事前学習を通じて、これまで知らなかった祭りの歴史や文化を学び、地元新発田は素晴らしい伝統や文化があふれる地域であることを再発見できました。

教室での学びを社会での実践で深める

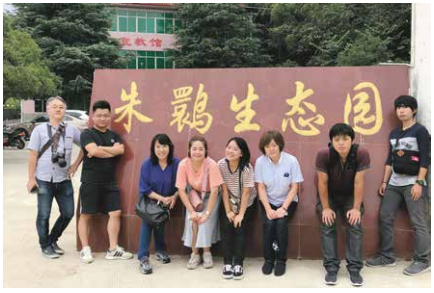
朱鷺を巡る中国陝西省での現地調査のご報告

一生忘れられない朱鷺の旅

国際文化学科 卒業
羅 映亮

環境と経済の関係、特に「生き物と人間とが共存するための社会環境制度の整備」に焦点を当て、学生たちを引率し「朱鷺を巡る旅」を行いました。これは、「教室での学び」を「社会で実践」することを強く意識した研究調査です。

私たちはまず、一九六〇年代から今日までの朱鷺に関する環境史（絶滅危惧状態、野生絶滅状態とその復活まで）と社会環境制度化整備のプロセスを教室で学びました。その後、佐渡トキ保護センターを拠点に朱鷺の餌場となるビオトープづくりを実践した上で、野生の朱鷺が多く生存する中国陝西省洋県に行きました。現地での調査を通じ、学生たちは、環境復興と地域経済復興の相関関係を深く理解できました。（国際文化学科 房）



朱鷺生態園（中国陝西省）にて

六月の佐渡島「朱鷺を巡る旅」に続き、九月八日から一三日までの五日間、中国陝西省西安市近くにある洋県長青華陽生態保護区域朱鷺生態園などへ行ってきました。この旅は、朱鷺の復活と生物生息環境づくりとの関係を理解するための現地調査が目的です。四月からすすめてきた学習を経て、房先生が長い期間をかけてこの企画を実現してくれました。

房先生、一戸先生、池田先生と私たち計八人は国際・国内飛行機に乗り、さらにマイクロバスおよび登山用電動カーを乗り継いで遠くまでやってきました。無農薬田んぼが延々と広がる生態保護区域内に野生の朱鷺が飛来し、田んぼにある入り江で餌を探す場面を見た時はびっくり仰天で興奮しました。その後、パンダや金糸猴（きんしこう）も見ることができました。私たちは、世界遺産である秦の始皇帝兵馬俑（へいばよう）博物館なども見学し、人間と自然の偉大さに圧倒されました。夏の現地調査の後、前期で卒業する私にとっては、今回の旅が一生忘れられない大満足かつ冒険的な卒業旅行になりました。

社会実践による学生の成長を紹介

企業の皆さまとの懇談会を開催

企業の採用ご担当者との懇談会を、一一月一四日、ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟にて開催し、一三六社二〇三名のご参加をいただきました。第一部は丸畠就職委員長から本学の就職支援体制についての説明があり、その後、学生の成果報告として「サンタ・プロジェクト」と「Ｊａｚｚ Ｑｕｅｓｔ」の取り組みについてのプレゼンテーションを行いました。第二部は、企業ご担当者、本学学生、教職員を交えた懇親会がなごやかな雰囲気の中で行われました。企業ご担当者からは「学生が学んでいる内容が分かった」、「学生発表を毎年楽しみにしている」等の声が多く寄せられました。（就職委員会）

企業の採用ご担当者と情報交換

「新潟と私」「国際法とともに」

小和田恆先生をお迎えして

大変光栄なことに、新発田生まれの外交官で国際法学者・実践家である敬和学園大学名誉文化博士の小和田恆先生が、一五年間のハーグ国際司法裁判所判事の務めを終えて帰国し、本学で講演されました。一一月一五日には市民の皆さまに「新潟と私」、一六日には学生向けに「国際法とともに生きた六〇年余りの人生」と題して講演され、聴衆一同に深い感銘を与えました。本学でのご講演は二〇年前の国連大使最終日講演「危機の時代における国連外交」、一八年前の大学創立一〇周年記念講演「世界の中の日本」に次いで三度目です。溢れるばかりのメッセージに心から感謝します。

（学長　山田）

本学名誉文化博士の小和田恆先生による講演

信濃川ミズベリング・プロジェクト

Jazz Questが水上ステージで演奏

新潟が誇る日本一の大河・信濃川で行われた水上コンサートで、敬和学園大学Jazz Questが演奏しました。このコンサート「Music on the River」は、新潟市などが主催する「ミズベリング・プロジェクト」と連携して企画されたもので、今年が初めての開催となりました。

今回のステージは、メンバーがリスペクトするデューク・エリントンを中心としたジャズからおなじみの歌謡曲まで、年齢を問わず楽しめるものでした。秋の高く澄み渡った空の下、ミズベリングに出店するさまざまな屋台の料理や飲み物を味わいながら、素敵な演奏を楽しむことができました。

Jazz Questは信濃川水上ステージに立った初めてのバンドになりました

二五周年記念募金者ご芳名

（二〇一八年一〇月三一日現在、敬称略）

〈一　般〉

荒井　重人、ヒロコ・ウプレティ、河本　壽惠乃、菊地　可寿子、小島　享、工藤　久美子、櫛谷　多恵子、真島　隆夫、齊藤　岳史、坂井　智、渡辺　明紀、吉田　武雄、社会福祉法人いじみの福祉会、増谷康昌税理士事務所 増谷康昌、宮内クリニック、日本基督教団新潟信濃町教会

〈卒業生・在学生・保護者〉

呉　賢欄（三）、石野　繁男（二六）、田中　裕之（二八）、髙橋　裕一（二八）

〈学園関係〉

藤野　豊、本間　亜由美、加藤　君恵、桑原　ヒサ子、松本　ますみ、中村　義実、佐藤　睦郎、田中　利光、山﨑　由紀

（　）内、漢数字は期生、算用数字は回数

皆さまからの記念募金は、学生寮や奨学金などに活用させていただきます。

〈郵便振替口座〉

〇〇五五〇-五-一〇二四二三

敬和学園大学

授業紹介⑭「環境経済学」 担当：房文慧

環境保護と持続性の関係について考える

実践的な活動につながる学び

国際文化学科三年　杉山　優太

豊かさが増すにつれ、私たちは身の回りの環境に関心を払いはじめます。二〇世紀の急速な工業化や都市化は、環境破壊を引き起こしました。そして二〇世紀末には地球温暖化問題も深刻化しました。また、二〇一一年の東日本大震災での原発事故により、これまでの環境経済政策の問題点が浮き彫りにされました。

この授業では、環境破壊のプロセスおよび地域環境復興の現状を理解した上で、各国で環境負荷を抑制・削減するために環境政策がいかに展開されているか、また環境規制に対して企業や消費者、自治体がどのように対応しているかを分析し、環境保護と持続性の関係について、今後進むべき方向を考えます。

「環境経済学」授業の様子

かねてより議論されてきた温室効果ガス等による地球温暖化問題だけでなく、近年ではプラスチックごみによる海洋汚染や野生生物種の減少など、産業の発達に伴いさまざまな形で環境破壊が起きています。環境経済学の授業では、大気と海洋汚染、森林減少といった人間社会が引き起こす環境問題について、経済学という道具を用いることでそれらが起こるメカニズムの分析や、それを基に打ち出される政策や課題について学びます。

私たち学生には、社会の発展に伴う環境問題に対してどのような政策を展開する必要性があるのか、また、消費者一人ひとりが環境への負担を抑制・削減するため何を行うことが必要とされるのかについて、理論的な分析・考察が求められます。私にとって本講義は、単に社会が直面している環境問題を理解するだけではなく、環境保全に向けた活動の必要性を感じさせられるものであり、「環境経済」を研究テーマとする房先生のゼミに所属することによって、本講義で学んだことを実践的な活動として生かすことができていると感じています。

一般寄付者ご芳名

（二〇一八年一〇月三一日現在、敬称略）

〈一　般〉
川村　邦彦

〈卒業生・在学生・保護者〉
呉　賢欄（三）、稲田　拓（二四）

〈学園関係〉
後援会（3）、オレンジ会

（　）内、漢数字は期生、算用数字は回数

皆さまからのご寄付は、学生生活の充実に活用させていただきます。
〈郵便振替口座〉
〇〇六三〇・九・一九八九六
敬和学園大学

同窓会リレー・エッセイ 44

相手に伝えることの面白さ

二〇一七年度卒業
若山　真生（まさき）

敬和学園大学を卒業し、今年四月に大学のある新発田市のコミュニティＦＭ局「エフエムしばた」に入社しました。

入社してあっという間に半年が過ぎ、ようやく仕事にも慣れてきました。仕事内容としては、取材・編集、放送、営業とさまざまなことをします。ありがたいことに一〇月からは、水曜日お昼の番組「ひるどきしばた７６９」と金曜日夕方の番組「ごきげんラジオ７６９」に見習いパーソナリティーとして出演させていただいています。

大学時代を振り返ってみると、今の仕事と直結する学びや活動が多かったことに気づきます。私は、一戸ゼミに所属し、情報メディアについて深く学ばせてもらいました。特に取り組んだのは、動画の撮影や編集をして、地域の魅力などを「映像で伝える」活動です。簡単に言ってしまうと、ＹｏｕＴｕｂｅｒみたいなことをやっていました。なぜ文章や写真ではなく動画にするのかというと、動画にすることで、自分の思いや伝えたかったことがより相手に伝わるからです。その分、取材や撮影、編集に時間がかかり、めちゃくちゃ大変でしたが…。

また、取材データに向き合い、動画を編集する中で「自分がまず何を伝えたいのか？」「取材相手はどんなことを伝えたかったのか？」が見えてきて、さらにそれが視聴者にも伝わった時にはとてもうれしかったです。「映像で伝える」ことの醍醐味は一戸ゼミで学んだ大切なことです。

現在、私は言葉で伝えることが仕事です。自分の見たもの、感じたことを言葉にすることは難しいですが、日々、大学での学びが生きている実感があります。

大学四年間は、自由に使える時間がたくさんあります。やってみたいことは、考えるより先にどんどん取り組んでください。そして、敬和学園でよかったなと思える学生生活を過ごして欲しいです。

「公開スタジオ」で収録する若山さん

学事予告

◆一二月◆
八日　第一回入学前スクーリング　聖籠町キッズカレッジ（英語教室）②
一五日　ＡＯ入学試験（二期）面談日①
二一日　クリスマス行事
二三日　冬期休暇（一月三日まで）
二六日　ＡＯ入学試験（二期）面談日②
◆一月◆
四日　休業（創立記念日振替休日）
五日　講義再開
一〇日　卒業論文提出締切
一九日　大学入試センター試験（二〇日まで）
三〇日　ＡＯ入学試験（四期）面談日①
◆二月◆
二日　後期講義終了
三日　学業選抜特待生入学試験（学力型一期）
一般入学試験（Ａ日程）
外国人留学生入学試験（一期）
社会福祉士国家試験
四日　後期末試験（九日まで）
六日　ＡＯ入学試験（四期）面談日②
一〇日　春期休暇（四月三日まで）
一一日　後期集中講義①（一五日まで）
一二日　一般入学試験（Ｂ日程）
一六日　第二回入学前スクーリング
二〇日　後期末追試験（二二日まで）
二五日　後期集中講義②（三月一日まで）
◆三月◆
四日　再試験（五日まで）
学業選抜特待生入学試験（学力型二期）
一般入学試験（Ｃ日程）
外国人留学生入学試験（二期）
図書館蔵書整理（八日まで）
八日　学内合同企業説明会
二〇日　ＡＯ入学試験（五期）面談日①②
推薦入学試験（二期）
二二日　卒業式、卒業記念パーティー
三一日　学年終わり

From Campus

キャンパス日誌

8 August

1 広東海洋大学寸金学院国外特別聴講学生修了式
教授会
4 オープンキャンパス④（141 名）
5 夏期休暇（～9月19日）
6 前期集中講義期間①（～10日）
8 教職員 SD 研修会 「救命救急法講習会」
13 夏期特別休業（～15日）
18 AO 入学試験（1 期）面談日①
20 教員免許状更新講習（93 名）
前期補講日（～21日）
21 教育活動アクティブワーク（～23日、国立妙高自然の家）
24 西会津高校大学見学（1・2 年生 4 名、教員 2 名）
25 AO 入学試験（1 期）面談日②
27 前期集中講義②（～31日）
職員 SD 研修会
新発田まつり民謡流し（43 名）（写真①）
28 前期追試験（～29日）

9 September

5 教職員 FD・SD 研修会
講師 岩田雅明 新島学園短期大学学長
「地方小規模大学の魅力のつくり方」
教授会
国家試験対策講座 3（～7日、あかたにの家）
7 AO 入学試験（1 期）合格発表
13 理事会
19 前期卒業式
21 履修相談日
22 英検 2 級・準 2 級一次・二次試験対策英語集中講座②（52 名）
23 AO 入学試験（2 期）面談日①
24 後期講義開始、履修登録期間（～29日）
26 新潟向陽高校大学見学（1 年生 41 名、教員 2 名）
27 新発田市オープンカレッジ①、産学連携セミナー
講師 アリス・ゴーデンカー 在日アメリカ人ジャーナリスト
「外国人から見る日本の魅力」（28 名）（写真②）
28 チャペル・アッセンブリ・アワー⑮
説教 山田耕太 学長「最も小さい者の一人に」
前期エッセイ・コンテスト授賞式
29 AO 入学試験（2 期）面談日②

10 October

3 教授会
5 AO 入学試験（2 期）合格発表
チャペル・アッセンブリ・アワー⑯
説教 下田尾治郎 宗教部長「レジリエンス」
講話 「広島 8.6 平和学習プログラムに参加して」
小黒美羽 英語文化コミュニケーション学科 2 年、
寺沢慈 英語文化コミュニケーション学科 2 年
「広島長崎平和学習を終えて」
豊田頌 英語文化コミュニケーション学科 1 年
8 ウィークデー・オープンキャンパス（51 名）
履修登録確認期間（～12日）
10 避難訓練
12 チャペル・アッセンブリ・アワー⑰
講師 三宅信雄 日本原水爆被害者団体協議会役員
「広島の被爆体験とその後の世界の核開発」
19 チャペル・アッセンブリ・アワー⑱
説教 山﨑ハコネ 准教授「キリストがあがめられるように」
講話 藤田富士夫 非常勤講師
「考古学のおもしろさ」（写真③）
20 「地域学入門」バスハイク、フォト・ウォーク
24 新発田市立猿橋中学校職場体験（～25日、2 年生 2 名）
25 ふれあいバラエティ（40 名）
26 秋季入学式
27 第 28 回敬和祭、ホームカミングデー（～28日）
進学相談会（～28日）
名誉教授贈呈式（写真④）
29 新発田市オープンカレッジ②、産学連携セミナー
講師 井出明 金沢大学国際基幹教育院准教授、
一戸信哉 教授、房文慧 教授
「ソーシャルメディア時代の観光」（40 名）
30 関根学園高校大学見学 （1 年生 44 名、教員 1 名）

11 November

2 チャペル・アッセンブリ・アワー⑲
説教 田中利光 准教授「自分の身の丈を知り神を知る」
講話 山田耕太 学長
「キリシタン時代のリベラルアーツ教育とその後」
7 阿賀野高校大学見学（1 年生 60 名、教員 4 名）
AFS 留学高校生来学
教授会
9 チャペル・アッセンブリ・アワー⑳
説教 山田耕太 学長
「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」
講話 大竹泰彦 新発田税務署長「くらしを支える税」
10 大学入試共通テスト試行調査（プレテスト）
12 相談援助実習 2（～24日）
フィールド・トレーニング 1（～23日）
14 企業との就職懇談会
（ANA クラウンプラザホテル新潟、136 社 203 名）
15 小和田恆先生講演会「新潟と私」（226 名）
16 チャペル・アッセンブリ・アワー㉑
講話 小和田恆 前国際司法裁判所所長
「国際法とともに生きた 60 年余りの人生」
17 推薦入学試験（1 期）試験日
21 臨時教授会
22 推薦入学試験（1 期）合格発表
23 Jazz Quest 第 2 回定期演奏会
24 1･2 年生保護者懇談会（50 名）
29 理事会
30 チャペル・アッセンブリ・アワー㉒
説教 宇田川潔 副理事長「あなたの家に泊まりたい」
講話 高田清太郎 高田建築事務所代表取締役会長
「出会いが紡ぎ出す空間物語」
クリスマスツリー点灯式（写真⑤）

Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol.59

きっと夢は叶う！ 支えてくれた皆さんに感謝

英語文化コミュニケーション学科４年
大屋　侑可

引退コンサートとなった「第2回定期演奏会」（中央が大屋さん）

私は、大学入学直後の2015年に、仲間と共にJazz Questというビッグバンドを始動しました。そして、3年余りの活動を経た今年、 新潟県で初、念願であった大学生ジャズビッグバンドの全国大会に出場することができました！

1年目は人数が足りなくて、ビッグバンドの演奏すらできず、2年目には部を去る部員もおり、残ったメンバーで泣きながら何度もミーティングをしたこともあります。数々の危機に直面しましたが、高校時代の顧問の先生、講師の先生、大学事務の方、先生方など、まわりにいた多くの敬和ファミリーの献身的なサポートのおかげで、一つひとつ乗り越えることができました。そのお陰で、私はいつか必ず全国大会に出場するという信念を持ち、がんばり続けることができました。

「いつもビジョンを持って努力すれば、きっと夢は叶う」、そう実感することができた大学4年間でした。敬和学園だったから達成することができた全国大会出場。敬和学園でよかった。みんなありがとう！

山﨑由紀先生のコメント

大屋さんは、敬和学園高校から進学した当初から、大学でどのような力を獲得したいのか明確な目標を持っていました。クラス内でも物怖じせず発言する力は、クラスメートたちの考えを引き出し、本人の思考する力をより深め、成長につながっています。大好きなデューク・エリントンを通して多様性社会を分析する卒業論文は、リベラルアーツ教育の結晶、そして敬和学園７年教育の集大成となるでしょう。

発行／敬和学園大学
印刷／島津印刷株式会社
〒957-8585 新発田市富塚1270番地 Tel.0254-26-3636
〒957-0000 新発田市富塚1419番地 Tel.0254-27-2101

Monami
敬和学園大学の最新情報
敬和学園大学 検索
www.keiwa-c.ac.jp